

資料（集計結果）

1 全障害..... P 1	6 知的障害..... P 1 0
(1) 障害の内容について	(1) 障害の内容について
(2) 必要な配慮について	共通事項
	障害別事項
	(2) 必要な配慮について
	共通事項
	障害別事項
2 視覚障害..... P 2	7 精神障害..... P 1 2
(1) 障害の内容について	(1) 障害の内容について
共通事項	共通事項
障害別事項	障害別事項
(2) 必要な配慮について	(2) 必要な配慮について
共通事項	共通事項
障害別事項	障害別事項
3 聴覚・言語障害..... P 4	8 発達障害..... P 1 4
(1) 障害の内容について	(1) 障害の内容について
共通事項	共通事項
障害別事項	障害別事項
(2) 必要な配慮について	(2) 必要な配慮について
共通事項	共通事項
障害別事項	障害別事項
4 肢体不自由..... P 6	
(1) 障害の内容について	
共通事項	
障害別事項	
(2) 必要な配慮について	
共通事項	
障害別事項	
5 内部障害..... P 8	
(1) 障害の内容について	
共通事項	
障害別事項	
(2) 必要な配慮について	
共通事項	
障害別事項	

共通事項（障害種別内訳）〔グラフ〕

・ 障害の内容.....	P 1 6
・ 必要な配慮.....	P 1 8

「障害のある当事者からのメッセージ(知ってほしいこと)」の集計結果

1 全障害

事 項	人数(人)	割合
	1,011	100.0%
(1) 障害の内容について		
1 外見で分かるものだけが障害ではなく、外見では分からないために理解されずに苦しんでいる障害もある。	856	84.7%
2 障害の種類も程度も様々であり、一律ではない。	815	80.6%
3 障害は誰にでも起こり得る身近なもの。	733	72.5%
4 障害があっても普通の生活をしたいと願っている。	733	72.5%
5 障害が重度でも生き甲斐や役割を持つことでいきいき生活できる。	674	66.7%
6 障害は本人や家族の責任で生じるものではない。	651	64.4%
7 目が悪くなれば眼鏡をかけるように、不自由さを補う道具や援助があればできることは多い。	649	64.2%
8 普通の人と同じようにできないのは、努力が不足しているからではない。	609	60.2%
9 「みんな一緒に」「できないことや苦手を克服」といった社会の当たり前の価値観に苦しんでいる人もいる。	587	58.1%
10 障害があるために特別な目で見られたり、同情されたり、軽蔑されたりすることは耐え難い。	554	54.8%
11 障害があることは、「不幸」ではなく「不自由」なだけ。	511	50.5%
12 「障害がある人」とは「特別な支援が必要な人」である。	446	44.1%
(2) 必要な配慮について		
1 本人や家族の努力だけでは解決できないことが多い。	763	75.5%
2 障害があっても働きたいと願っているので、働くための支援や働く場を確保して。	712	70.4%
3 障害者に関わる専門家は必要な知識をしっかりと身につけて。	693	68.5%
4 「障害があるからできない」と決めつけずに、できることを一緒に考えて。	681	67.4%
5 障害だけを見るのではなく、一人の人間として全体像を見て。	661	65.4%
6 障害者のためのサービスをもっと利用しやすくして。	645	63.8%
7 障害者にもいろいろなことに挑戦できる機会を多く設けて。	609	60.2%
8 特別扱いではなく普通の人としてさりげなく接して。	577	57.1%
9 自分の周りにはいる障害者のイメージで障害者一般を考えないで。	572	56.6%
10 福祉の制度や施設の中だけに障害者を囲い込まないで。	571	56.5%
11 思いこみや押し付けの援助ではなく、援助が必要かどうかを尋ねてから必要な援助をして。	564	55.8%
12 何かができないことを可哀想と思う風潮を改めて。	490	48.5%
13 「障害があるのに頑張っている」と変に美化しないで。	485	48.0%
14 自分の障害のことを端的に説明するのは難しいので、障害の内容よりもどのような支援が必要かを聞いて。	478	47.3%
15 相互理解のために自然に交流できる場を設けて。	464	45.9%
16 介助者がいても、介助者ではなく本人に話しかけて。	463	45.8%
17 イベント等で障害に対する配慮がされている場合は、事前に十分周知して。	458	45.3%
18 障害を無くしたり軽くすれば、問題が無くなると考えないで。	449	44.4%
19 ことさらに障害に関する言葉や事実を避けて話したり、遠まわしに言われることは、心の負担となる。	433	42.8%
20 交通機関の障害者割引を利用する際に、嫌な顔をしないで。	425	42.0%
21 子ども扱いしたり友達言葉で話しかけないで。	342	33.8%
22 障害について理解するため、車いすやアイマスクなどで障害を疑似体験してみてもいい。	314	31.1%
23 「障害」というイメージが悪い言葉を他の適切な言葉に変えて。	314	31.1%

「障害のある当事者からのメッセージ(知ってほしいこと)」の集計結果

2. 視覚障害

事 項	人数(人)	割合
	205	100.0%
(1) 障害の内容について		
共通事項		
1 障害の種類も程度も様々であり、一律ではない。	189	92.2%
2 障害が重度でも生き甲斐や役割を持つことでいきいき生活できる。	184	89.8%
3 障害は誰にでも起こり得る身近なもの。	180	87.8%
4 目が悪くなれば眼鏡をかけるように、不自由さを補う道具や援助があればできることは多い。	178	86.8%
5 障害があっても普通の生活をしたいと願っている。	176	85.9%
6 外見で分かるものだけが障害ではなく、外見では分からないために理解されずに苦しんでいる障害もある。	173	84.4%
7 障害があるために特別な目で見られたり、同情されたり、軽蔑されたりすることは耐え難い。	155	75.6%
8 障害は本人や家族の責任で生じるものではない。	146	71.2%
9 障害があることは、「不幸」ではなく「不自由」なだけ。	137	66.8%
10 普通の人と同じようにできないのは、努力が不足しているからではない。	135	65.9%
11 「みんな一緒に」「できないことや苦手を克服」といった社会の当たり前の価値観に苦しんでいる人もいる。	110	53.7%
12 「障害がある人」とは「特別な支援が必要な人」である。	85	41.5%
障害別事項		
1 視覚障害者が点字を使えるとは限らない。	178	86.8%
2 エレベーターに音声案内が無ければ、止まった時に何階なのか分からない。	177	86.3%
3 視覚障害には、全くもしくはほとんど見えない「全盲」と見えづらい「弱視」があり、「弱視」の見えづらさも多様である。	175	85.4%
4 トイレが男性用か女性用か分からない。	170	82.9%
5 視覚障害は情報障害であり、「見えないからできない」ことより「見えないために教えてもらえないのでできない」ことが多い。	164	80.0%
6 自分がどこにいるか、側に誰がいるのか説明がないと分からない。	141	68.8%
7 人の視線や表情が理解できず、コミュニケーションに苦労する。	137	66.8%
8 駅のホームなどではいつも転落の危険を感じている。	135	65.9%
9 弱視者には階段の縁等が分かりにくく、危険を感じる。	116	56.6%
(2) 必要な配慮について		
共通事項		
1 「障害があるからできない」と決めつけずに、できることを一緒に考えて。	179	87.3%
2 思いこみや押し付けの援助ではなく、援助が必要かどうかを尋ねてから必要な援助をして。	179	87.3%
3 障害だけを見るのではなく、一人の人間として全体像を見て。	176	85.9%
4 本人や家族の努力だけでは解決できないことが多くある。	171	83.4%
5 特別扱いではなく普通の人としてさりげなく接して。	170	82.9%
6 福祉の制度や施設の中だけに障害者を囲い込まないで。	169	82.4%

7	障害者にもいろいろなことに挑戦できる機会を多く設けて。	163	79.5%
8	障害があっても働きたいと願っているので、働くための支援や働く場を確保して。	162	79.0%
9	障害者のためのサービスをもっと利用しやすくして。	161	78.5%
10	障害者に関わる専門家は必要な知識をしっかりと身につけて。	158	77.1%
11	何かができないことを可哀想と思う風潮を改めて。	155	75.6%
12	自分の周りにいる障害者のイメージで障害者一般を考えないで。	153	74.6%
13	「障害があるのに頑張っている」と変に美化しないで。	150	73.2%
14	介助者がいても、介助者ではなく本人に話しかけて。	148	72.2%
15	ことさらに障害に関する言葉や事実を避けて話したり、遠まわしに言われることは、心の負担となる。	136	66.3%
16	イベント等で障害に対する配慮がされている場合は、事前に十分周知して。	136	66.3%
17	相互理解のために自然に交流できる場を設けて。	134	65.4%
18	交通機関の障害者割引を利用する際に、嫌な顔をしないで。	127	62.0%
19	自分の障害のことを端的に説明するのは難しいので、障害の内容よりもどのような支援が必要かを聞いて。	120	58.5%
20	子ども扱いしたり友達言葉で話しかけないで。	118	57.6%
21	障害を無くしたり軽くすれば、問題が無くなると考えないで。	112	54.6%
22	障害について理解するため、車いすやアイマスクなどで障害を疑似体験してみて。	104	50.7%
23	「障害」というイメージが悪い言葉を他の適切な言葉に変えて。	35	17.1%

障害別事項

1	視覚障害者もパソコンやインターネットを使っているのので、音声読み上げソフトで対応できるように配慮して。	189	92.2%
2	タッチパネル式の機械だとうまく操作できない。	185	90.2%
3	点字ブロック上に自転車を駐輪するなど歩行を妨げることをしないで。	185	90.2%
4	視覚障害者に話しかけるときは、声だけでは相手が思い出せないこともあるので、最初に名前を伝えて。	182	88.8%
5	場所を示すときは、右・左・前・後ろといった方向や距離、角度など具体的に説明して。	180	87.8%
6	視覚障害者をガイドするときは、肩か肘を軽くつかませて。腕や肩を押したり、白杖を触ることはしないで。	179	87.3%
7	抽象的な指示語(これ、それ、あれ等)は理解できないので、具体的に言って。	178	86.8%
8	視覚障害者もテレビから情報を得ているので、副音声化など必要な配慮をして。	176	85.9%
9	ホームページの画像にはテキストの説明を付けて。	176	85.9%
10	点字だけでなく音声でも案内をして。	173	84.4%
11	町で困っている感じの視覚障害者を見かけたら、まず「何かお手伝いしましょうか」と声を掛けて。	171	83.4%
12	商品の取扱説明書には、スピーチオで読み取れるSPコードを付けたり、スクリーンリーダーで読めるようにして。	168	82.0%
13	文書を読むことや字を書くことができないので、代読や代筆に協力して。	159	77.6%
14	紙幣が判別しづらいため、支払いに時間がかかる。	134	65.4%
15	点字ブロックの色を周辺の床色とはっきり区別できる色にしてほしい。	115	56.1%
16	視覚障害者が利用しやすいよう、一般の公共トイレ内の設備の配置や仕様はなるべく共通にして。	105	51.2%
17	歩行時の障害物(歩道の自転車、路上駐車の実用車・トラックのサイドミラー、標識、看板等)により、日常的に怪我が絶えない。	104	50.7%
18	手に触れられるものは、触れさせながら説明して。	103	50.2%

「障害のある当事者からのメッセージ(知ってほしいこと)」の集計結果

3. 聴覚・言語障害

事 項	人数(人)	割合
	141	100.0%
(1) 障害の内容について		
共通事項		
1 外見で分かるものだけが障害ではなく、外見では分からないために理解されずに苦しんでいる障害もある。	128	90.8%
2 障害は誰にでも起こり得る身近なもの。	111	78.7%
3 障害の種類も程度も様々であり、一律ではない。	103	73.0%
4 障害があっても普通の生活をしたいと願っている。	99	70.2%
5 障害があることは、「不幸」ではなく「不自由」なだけ。	88	62.4%
6 障害が重度でも生き甲斐や役割を持つことでいきいき生活できる。	88	62.4%
7 障害があるために特別な目で見られたり、同情されたり、軽蔑されたりすることは耐え難い。	80	56.7%
8 目が悪くなれば眼鏡をかけるように、不自由さを補う道具や援助があればできることは多い。	77	54.6%
9 普通の人と同じようにできないのは、努力が不足しているからではない。	74	52.5%
10 「みんな一緒に」「できないことや苦手を克服」といった社会の当たり前の価値観に苦しんでいる人もいる。	74	52.5%
11 障害は本人や家族の責任で生じるものではない。	73	51.8%
12 「障害がある人」とは「特別な支援が必要な人」である。	48	34.0%
障害別事項		
1 聴覚障害はコミュニケーションが困難な点につらさがある。	123	87.2%
2 音声での情報が理解できず、アナウンスされても分からない。	117	83.0%
3 聴覚障害には、全く聞こえない者もいれば、聞こえづらい者もいる。	116	82.3%
4 聴覚障害者が手話を使えるとは限らず、中途失聴者の多くは手話ができない。	115	81.6%
5 聴覚障害者の中には音を感じる器官(内耳)が障害されている者も多く、その場合には補聴器で音を大きくしても聞こえるわけではない。	112	79.4%
6 中途失聴者の場合は、聞こえなくても話せる者が多く、「挨拶をしたのに無視された」などと誤解されがち。	107	75.9%
7 聴覚障害者の中には、常時耳鳴りに悩まされている人もいる。	93	66.0%
(2) 必要な配慮について		
共通事項		
1 本人や家族の努力だけでは解決できないことが多くある。	95	67.4%
2 障害者に関わる専門家は必要な知識をしっかりと身につけて。	89	63.1%
3 障害だけを見るのではなく、一人の人間として全体像を見て。	88	62.4%
4 「障害があるからできない」と決めつけずに、できることを一緒に考えて。	87	61.7%
5 介助者がいても、介助者ではなく本人に話しかけて。	87	61.7%

6	障害があっても働きたいと願っているので、働くための支援や働く場を確保して。	81	57.4%
7	特別扱いではなく普通の人としてさりげなく接して。	80	56.7%
8	障害者のためのサービスをもっと利用しやすくして。	80	56.7%
9	障害者にもいろいろなことに挑戦できる機会を多く設けて。	75	53.2%
10	思いこみや押し付けの援助ではなく、援助が必要かどうかを尋ねてから必要な援助をして。	73	51.8%
11	自分の周りにいる障害者のイメージで障害者一般を考えないで。	72	51.1%
12	イベント等で障害に対する配慮がされている場合は、事前に十分周知して。	72	51.1%
13	福祉の制度や施設の中だけに障害者を囲い込まないで。	67	47.5%
14	「障害があるのに頑張っている」と変に美化しないで。	66	46.8%
15	自分の障害のことを端的に説明するのは難しいので、障害の内容よりもどのような支援が必要かを聞いて。	66	46.8%
16	何かができないことを可哀想と思う風潮を改めて。	60	42.6%
17	障害を無くしたり軽くすれば、問題が無くなると考えないで。	62	44.0%
18	ことさらに障害に関する言葉や事実を避けて話したり、遠まわしに言われることは、心の負担となる。	62	44.0%
19	相互理解のために自然に交流できる場を設けて。	60	42.6%
20	交通機関の障害者割引を利用する際に、嫌な顔をしないで。	50	35.5%
21	「障害」というイメージが悪い言葉を他の適切な言葉に変えて。	42	29.8%
22	障害について理解するため、車いすやアイマスクなどで障害を疑似体験してみて。	40	28.4%
23	子ども扱いしたり友達言葉で話しかけないで。	35	24.8%
障害別事項			
1	アナウンスが聞こえないので、電光掲示板やパネル等の視覚を通じた情報伝達の方法も考えて。	123	87.2%
2	聴覚障害者はテレビからも情報を得ており、テレビの字幕放送や手話入り放送を充実して。	119	84.4%
3	聴覚障害者と話す場合には、手話、筆談、口話等コミュニケーションの方法も人により様々なので、どのようなコミュニケーション方法が良いか、直接本人に確認して。	116	82.3%
4	連絡方法が電話だけだと対応できないので、メールやファックスでも連絡できるようにして。	116	82.3%
5	手話ができない聴覚障害者も少なくなく、イベントなどでは手話通訳だけでなく、要約筆記・パソコン筆記通訳も付けて。	113	80.1%
6	手話ができなければ聴覚障害者と会話できないと決めつけず、筆談や口話(口の形の読み取り)、身振りなど色々な伝達方法を試みて。	108	76.6%
7	難聴者は、相手の唇の動きや全体の表情等を総合的に判断して内容を理解しているため、大きな声ではなく、ゆっくり、はっきりと話をして。	100	70.9%
8	補聴器はどんな環境でも聞こえるものではないので、静かな場所で近いところでゆっくりはっきり話をして。	87	61.7%
9	手話通訳者が同席していても、手話通訳者ではなく本人に向けて話して。	71	50.4%

「障害のある当事者からのメッセージ(知ってほしいこと)」の集計結果

4. 肢体不自由

事 項	人数(人)	割合
	101	100.0%
(1) 障害の内容について		
共通事項		
1 障害があっても普通の生活をしたいと願っている。	78	77.2%
2 障害は誰にでも起こり得る身近なもの。	76	75.2%
3 障害の種類も程度も様々であり、一律ではない。	71	70.3%
4 外見で分かるものだけが障害ではなく、外見では分からないために理解されずに苦しんでいる障害もある。	71	70.3%
5 障害が重度でも生き甲斐や役割を持つことでいきいき生活できる。	70	69.3%
6 目が悪くなれば眼鏡をかけるように、不自由さを補う道具や援助があればできることは多い。	68	67.3%
7 障害があることは、「不幸」ではなく「不自由」なだけ。	56	55.4%
8 普通の人と同じようにできないのは、努力が不足しているからではない。	53	52.5%
9 「みんな一緒に」「できないことや苦手を克服」といった社会の当たり前の価値観に苦しんでいる人もいる。	53	52.5%
10 障害は本人や家族の責任で生じるものではない。	50	49.5%
11 障害があるために特別な目で見られたり、同情されたり、軽蔑されたりすることは耐え難い。	47	46.5%
12 「障害がある人」とは「特別な支援が必要な人」である。	34	33.7%
障害別事項		
1 車いすを利用していると、ちょっとした段差や障害物があると前に進むことができない。	69	68.3%
2 車いすを利用していると、高いところには手が届かず、床にある物も拾いにくい。	59	58.4%
3 脊髄損傷では、体温調整ができず、尿意をコントロールすることも難しい場合がある。	34	33.7%
4 進行性筋ジストロフィーは、全身性の筋肉の障害であるため、手先の動作が鈍く、自動販売機に小銭を投入することやレジでの支払いに手間がかかる。	31	30.7%
5 脊髄損傷では、手足が動かないだけでなく、感覚もなくなるが、その範囲は怪我の位置が高いほど広がる。	26	25.7%
(2) 必要な配慮について		
共通事項		
1 本人や家族の努力だけでは解決できないことが多くある。	70	69.3%
2 障害だけを見るのではなく、一人の人間として全体像を見て。	68	67.3%
3 障害があっても働きたいと願っているので、働くための支援や働く場を確保して。	67	66.3%
4 障害者のためのサービスをもっと利用しやすくして。	65	64.4%
5 「障害があるからできない」と決めつけずに、できることを一緒に考えて。	62	61.4%
6 障害者にもいろいろなことに挑戦できる機会を多く設けて。	59	58.4%
7 福祉の制度や施設の中だけに障害者を囲い込まないで。	59	58.4%

8	「障害があるのに頑張っている」と変に美化しないで。	58	57.4%
9	自分の周りにいる障害者のイメージで障害者一般を考えないで。	55	54.5%
10	思いこみや押し付けの援助ではなく、援助が必要かどうかを尋ねてから必要な援助をして。	55	54.5%
11	イベント等で障害に対する配慮がされている場合は、事前に十分周知して。	55	54.5%
12	障害者に関わる専門家は必要な知識をしっかりと身につけて。	55	54.5%
13	特別扱いではなく普通の人としてさりげなく接して。	54	53.5%
14	介助者がいても、介助者ではなく本人に話しかけて。	51	50.5%
15	何かができないことを可哀想と思う風潮を改めて。	50	49.5%
16	交通機関の障害者割引を利用する際に、嫌な顔をしないで。	48	47.5%
17	相互理解のために自然に交流できる場を設けて。	47	46.5%
18	自分の障害のことを端的に説明するのは難しいので、障害の内容よりもどのような支援が必要かを聞いて。	45	44.6%
19	障害を無くしたり軽くすれば、問題が無くなると考えないで。	39	38.6%
20	ことさらに障害に関する言葉や事実を避けて話したり、遠まわしに言われることは、心の負担となる。	38	37.6%
21	障害について理解するため、車いすやアイマスクなどで障害を疑似体験してみて。	38	37.6%
22	子ども扱いしたり友達言葉で話しかけないで。	35	34.7%
23	「障害」というイメージが悪い言葉を他の適切な言葉に変えて。	31	30.7%

障害別事項

1	和式のトイレでは利用できない者がいるので、公共トイレには必ず洋式トイレも設置して。	76	75.2%
2	障害者用の駐車スペースの絶対数が少ない上に、障害のない人が駐車して利用できないことがある。	76	75.2%
3	在宅勤務や車での通勤ができれば、重度の身体障害者でも働ける人が多い。	58	57.4%
4	エレベーターのボタンの位置は、車いすでも操作ボタンが押せる低い位置につけて。	49	48.5%
5	映画館等を利用する際、車いすでなければ自由に座席を選べるのに、車いすだと常に固定されてしまい選択肢がない。	48	47.5%
6	好意とわかっていても、突然見知らぬ人に車いすを押されることは、自分の体を触られたり、無理に腕を引っ張られるときのような不快感を覚える。	43	42.6%
7	エレベーターとエスカレーターが隣接している場合、元気な人はなるべくエスカレーターを使ってくれれば、車いすでエレベーターに乗るストレスも軽減される。	43	42.6%
8	階段は下りの方が危険を感じるので、エスカレーターは上りと下り双方に設置して。	43	42.6%
9	電車やバスの中で席を譲られた際、その席まで移動するのが難しくお断わりする場合もあるが、声をかけていただいたことは有り難く、決して迷惑とは思っていないことを理解して。	42	41.6%
10	起立できない障害者には、トイレでも横になれるスペースが必要であり、公共トイレにはベビー用以外にもベッドを設置したものが欲しい	39	38.6%

「障害のある当事者からのメッセージ(知ってほしいこと)」の集計結果

5. 内部障害

事 項	人数(人)	割合
	92	100.0%
(1) 障害の内容について		
共通事項		
1 外見で分かるものだけが障害ではなく、外見では分からないために理解されずに苦しんでいる障害もある。	86	93.5%
2 障害の種類も程度も様々であり、一律ではない。	77	83.7%
3 障害は誰にでも起こり得る身近なもの。	65	70.7%
4 障害があっても普通の生活をしたいと願っている。	65	70.7%
5 障害は本人や家族の責任で生じるものではない。	63	68.5%
6 障害が重度でも生き甲斐や役割を持つことでいきいき生活できる。	63	68.5%
7 普通の人と同じようにできないのは、努力が不足しているからではない。	60	65.2%
8 目が悪くなれば眼鏡をかけるように、不自由さを補う道具や援助があればできることは多い。	45	48.9%
9 「みんな一緒に」「できないことや苦手を克服」といった社会の当たり前の価値観に苦しんでいる人もいる。	45	48.9%
10 障害があることは、「不幸」ではなく「不自由」なだけ。	43	46.7%
11 「障害がある人」とは「特別な支援が必要な人」である。	38	41.3%
12 障害があるために特別な目で見られたり、同情されたり、軽蔑されたりすることは耐え難い。	35	38.0%
障害別事項		
1 外見では分からないため、周りからは理解されにくい。	82	89.1%
2 障害のある臓器(心臓、肺など)だけに支障があるのではなく、それに伴い全身状態が悪く、毎日毎日疲れが取れない疲労感に浸かった状態で、集中力や根気に欠け、トラブルになる場合も少なくない。	72	78.3%
3 内部障害者でも車いすを利用することがある。	56	60.9%
(2) 必要な配慮について		
共通事項		
1 本人や家族の努力だけでは解決できないことが多くある。	76	82.6%
2 障害があっても働きたいと願っているので、働くための支援や働く場を確保して。	67	72.8%
3 自分の周りにいる障害者のイメージで障害者一般を考えないで。	63	68.5%
4 障害者のためのサービスをもっと利用しやすくして。	62	67.4%
5 障害者に関わる専門家は必要な知識をしっかりと身につけて。	56	60.9%
6 障害だけを見るのではなく、一人の人間として全体像を見て。	52	56.5%
7 「障害があるからできない」と決めつけずに、できることを一緒に考えて。	49	53.3%
8 「障害があるのに頑張っている」と変に美化しないで。	47	51.1%
9 障害者にもいろいろなことに挑戦できる機会を多く設けて。	46	50.0%
10 交通機関の障害者割引を利用する際に、嫌な顔をしないで。	46	50.0%

11	イベント等で障害に対する配慮がされている場合は、事前に十分周知して。	45	48.9%
12	障害を無くしたり軽くすれば、問題が無くなると考えないで。	43	46.7%
13	福祉の制度や施設の中だけに障害者を囲い込まないで。	43	46.7%
14	何かができないことを可哀想と思う風潮を改めて。	42	45.7%
15	特別扱いではなく普通の人としてさりげなく接して。	39	42.4%
16	思いこみや押し付けの援助ではなく、援助が必要かどうかを尋ねてから必要な援助をして。	39	42.4%
17	ことさらに障害に関する言葉や事実を避けて話したり、遠まわしに言われることは、心の負担となる。	35	38.0%
18	介助者がいても、介助者ではなく本人に話しかけて。	29	31.5%
19	自分の障害のことを端的に説明するのは難しいので、障害の内容よりもどのような支援が必要かを聞いて。	29	31.5%
20	障害について理解するため、車いすやアイマスクなどで障害を疑似体験してみて。	29	31.5%
21	「障害」というイメージが悪い言葉を他の適切な言葉に変えて。	28	30.4%
22	子ども扱いしたり友達言葉で話しかけないで。	21	22.8%
23	相互理解のために自然に交流できる場を設けて。	21	22.8%
障害別事項			
1	内部障害のために疲れやすいが、外見上分からないため、優先席に座りたくても座りにくい。	73	79.3%
2	内部障害のあることを周囲の人に認識してもらえるようなマークやサインがあると良い。	64	69.6%
3	電車内の優先席に加え、ペースメーカーやICD(埋め込み型除細動器)を装着している人々のための安心できるスペースを確保して。	56	60.9%
4	車内で携帯電話を使用しないなど、内部障害が命に関わるものであることを知った上で、マナーある対応をして。	53	57.6%
5	人工肛門を付けているオストメイト対応のトイレを街中に増やし、安心して外出できるようにして。	31	33.7%

「障害のある当事者からのメッセージ(知ってほしいこと)」の集計結果

6. 知的障害

事 項	人数(人)	割合
	49	100.0%
(1) 障害の内容について		
共通事項		
1 外見で分かるものだけが障害ではなく、外見では分からないために理解されずに苦しんでいる障害もある。	42	85.7%
2 障害の種類も程度も様々であり、一律ではない。	41	83.7%
3 障害が重度でも生き甲斐や役割を持つことでいきいき生活できる。	39	79.6%
4 障害は本人や家族の責任で生じるものではない。	36	73.5%
5 目が悪くなれば眼鏡をかけるように、不自由さを補う道具や援助があればできることは多い。	32	65.3%
6 「障害がある人」とは「特別な支援が必要な人」である。	32	65.3%
7 障害は誰にでも起こり得る身近なもの。	31	63.3%
8 「みんな一緒に」「できないことや苦手を克服」といった社会の当たり前の価値観に苦しんでいる人もいる。	31	63.3%
9 障害があっても普通の生活をしたいと願っている。	28	57.1%
10 普通の人と同じようにできないのは、努力が不足しているからではない。	28	57.1%
11 障害があるために特別な目で見られたり、同情されたり、軽蔑されたりすることは耐え難い。	24	49.0%
12 障害があることは、「不幸」ではなく「不自由」なだけ。	22	44.9%
障害別事項		
1 抽象的な概念が理解しにくい。	40	81.6%
2 自分の意思を表現したり、質問したりすることが苦手。	39	79.6%
3 理解したり判断することが苦手。	38	77.6%
4 知的障害者は何もできない人ではなく、的確なサポートがないためにできないだけ。	36	73.5%
5 数の概念が難しい。	29	59.2%
6 漢字の読み書きが苦手な者が多い。	24	49.0%
(2) 必要な配慮について		
共通事項		
1 本人や家族の努力だけでは解決できないことが多くある。	39	79.6%
2 障害者のためのサービスをもっと利用しやすくして。	37	75.5%
3 「障害があるからできない」と決めつけずに、できることを一緒に考えて。	36	73.5%
4 障害者に関わる専門家は必要な知識をしっかりと身につけて。	35	71.4%
5 障害者にもいろいろなことに挑戦できる機会を多く設けて。	34	69.4%
6 障害があっても働きたいと願っているため、働くための支援や働く場を確保して。	34	69.4%
7 障害だけを見るのではなく、一人の人間として全体像を見て。	29	59.2%
8 福祉の制度や施設の中だけに障害者を囲い込まないで。	29	59.2%
9 相互理解のために自然に交流できる場を設けて。	23	46.9%
10 思いこみや押し付けの援助ではなく、援助が必要かどうかを尋ねてから必要な援助をして。	22	44.9%
11 何かができないことを可哀想と思う風潮を改めて。	21	42.9%

12	「障害があるのに頑張っている」と変に美化しないで。	20	40.8%
13	ことさらに障害に関する言葉や事実を避けて話したり、遠まわしに言われることは、心の負担となる。	20	40.8%
14	自分の障害のことを端的に説明するのは難しいので、障害の内容よりもどのような支援が必要かを聞いて。	20	40.8%
15	自分の周りにいる障害者のイメージで障害者一般を考えないで。	19	38.8%
16	「障害」というイメージが悪い言葉を他の適切な言葉に変えて。	19	38.8%
17	特別扱いではなく普通の人としてさりげなく接して。	18	36.7%
18	介助者がいても、介助者ではなく本人に話しかけて。	17	34.7%
19	交通機関の障害者割引を利用する際に、嫌な顔をしないで。	16	32.7%
20	子ども扱いしたり友達言葉で話しかけないで。	13	26.5%
21	障害を無くしたり軽くすれば、問題が無くなると考えないで。	12	24.5%
22	イベント等で障害に対する配慮がされている場合は、事前に十分周知して。	12	24.5%
23	障害について理解するため、車いすやアイマスクなどで障害を疑似体験してみて。	12	24.5%
障害別事項			
1	分かりやすい言葉で、ゆっくりと話して。	39	79.6%
2	働いて自立していくのに足りないものを補うことにより、共に生きる隣人として受け止めて。	38	77.6%
3	抽象的な概念ではなく、絵や図を使って具体的に分かりやすく説明して。	35	71.4%
4	質問する場合には、ゆっくりした口調で、具体的な内容にしてほしい。	33	67.3%
5	「知的障害」があるだけで無理だと決めつけず、理解しようとして。	31	63.3%
6	今の時代の母親は、障害児を閉じこめておけば良いとは全く考えず、どんどん表に出て行こうと考えている。	31	63.3%
7	知的障害者も学習意欲は高いので、学校卒業後にも学習の機会を与えて。	29	59.2%
8	困っていそうなときは、詰問調ではなく、優しく声をかけてほしい。	29	59.2%
9	説明文章は分かりやすくするとともに、漢字には読み仮名(ルビ)を付けて。	24	49.0%

「障害のある当事者からのメッセージ(知ってほしいこと)」の集計結果

7. 精神障害

事 項	人数(人)	割合
	168	100.0%
(1) 障害の内容について		
共通事項		
1 障害の種類も程度も様々であり、一律ではない。	129	76.8%
2 障害は誰にでも起こり得る身近なもの。	128	76.2%
3 障害があっても普通の生活をしたいと願っている。	128	76.2%
4 外見で分かるものだけが障害ではなく、外見では分からないために理解されずに苦しんでいる障害もある。	123	73.2%
5 障害が重度でも生き甲斐や役割を持つことでいきいき生活できる。	93	55.4%
6 「みんな一緒に」「できないことや苦手を克服」といった社会の当たり前の価値観に苦しんでいる人もいる。	90	53.6%
7 障害があるために特別な目で見られたり、同情されたり、軽蔑されたりすることは耐え難い。	87	51.8%
8 普通の人と同じようにできないのは、努力が不足しているからではない。	86	51.2%
9 障害は本人や家族の責任で生じるものではない。	81	48.2%
10 目が悪くなれば眼鏡をかけるように、不自由さを補う道具や援助があればできることは多い。	72	42.9%
11 「障害がある人」とは「特別な支援が必要な人」である。	63	37.5%
12 障害があることは、「不幸」ではなく「不自由」なだけ。	55	32.7%
障害別事項		
1 病気の苦しみも強いが、収入も少なく生活上の苦しみも強い。	111	66.1%
2 精神障害と分かる不利な扱いを受けることが多いため、精神障害であることを知られたくない者も多い。	108	64.3%
3 精神疾患に罹患する人は決して少なくなく、大変身近な病気だ。	102	60.7%
4 外見では分からない者もいるため、周りからなぜ働いていないかなど理解されにくい。	101	60.1%
5 精神障害者の多くは、自分の苦しさや要求を口に出したり行動したりすることが大変苦手。	94	56.0%
6 適切な治療や環境を整えることで、きちんと回復し、地域での自立した生活や働くこともできるようになる。	93	55.4%
7 刑事事件に関連する報道のために、精神障害者は危険な人だと思われて苦しんでいる。	88	52.4%
8 精神疾患の治療薬を飲んでいると、肉体と頭の働きにブレーキがかかり、作業能力や思考能力が低下する。	80	47.6%
9 病歴が長い場合、苦しい闘病生活を送ってきた過去がある。	80	47.6%
10 病気による症状の悪化や治療薬の作用のため、動作が遅くなったり、一見理解力が乏しいように見え、きちんと大人として扱ってもらえないのは辛い。	77	45.8%
11 思春期に発病して入退院を繰り返すこともあり、社会生活に慣れていない者も多い。	76	45.2%
12 脳外傷などにより生じる「高次脳機能障害」は、記憶力、注意力等の極端な低下とともに、他人とのコミュニケーションがうまくとれない障害だが、一見しても障害が分かりにくく他人に理解してもらえず、家族は途方にくれている。	51	30.4%
13 てんかんは、薬や外科手術でほとんどコントロールできるが、未だに無理解や偏見が残っている。	45	26.8%

(2) 必要な配慮について

共通事項

1	障害があっても働きたいと願っているので、働くための支援や働く場を確保して。	110	65.5%
2	障害者にもいろいろなことに挑戦できる機会を多く設けて。	101	60.1%
3	障害だけを見るのではなく、一人の人間として全体像を見て。	100	59.5%
4	特別扱いではなく普通の人としてさりげなく接して。	100	59.5%
5	「障害があるからできない」と決めつけずに、できることを一緒に考えて。	100	59.5%
6	本人や家族の努力だけでは解決できないことが多くある。	100	59.5%
7	障害者のためのサービスをもっと利用しやすくして。	93	55.4%
8	障害者に関わる専門家は必要な知識をしっかりと身につけて。	88	52.4%
9	自分の周りにいる障害者のイメージで障害者一般を考えないで。	85	50.6%
10	思いこみや押し付けの援助ではなく、援助が必要かどうかを尋ねてから必要な援助をして。	80	47.6%
11	福祉の制度や施設の中だけに障害者を囲い込まないで。	79	47.0%
12	相互理解のために自然に交流できる場を設けて。	75	44.6%
13	「障害」というイメージが悪い言葉を他の適切な言葉に変えて。	75	44.6%
14	交通機関の障害者割引を利用する際に、嫌な顔をしないで。	72	42.9%
15	自分の障害のことを端的に説明するのは難しいので、障害の内容よりもどのような支援が必要かを聞いて。	71	42.3%
16	障害を無くしたり軽くすれば、問題が無くなると思わないで。	69	41.1%
17	ことさらに障害に関する言葉や事実を避けて話したり、遠まわしに言われることは、心の負担となる。	67	39.9%
18	何かができないことを可哀想と思う風潮を改めて。	63	37.5%
19	イベント等で障害に対する配慮がされている場合は、事前に十分周知して。	62	36.9%
20	介助者がいても、介助者ではなく本人に話しかけて。	59	35.1%
21	子ども扱いしたり友達言葉で話しかけないで。	58	34.5%
22	「障害があるのに頑張っている」と変に美化しないで。	54	32.1%
23	障害について理解するため、車いすやアイマスクなどで障害を疑似体験してみて。	39	23.2%

障害別事項

1	精神障害者を特別視せず、その人らしさを尊重して、笑顔で優しく接して。	110	65.5%
2	精神障害をうち明けることは勇気が必要であり、うち明けられても勝手に他の人に言わないで。	95	56.5%
3	理解するのに時間がかかるため、早口でたくさんのことを説明せずに、ゆっくりとした口調で時間をかけて説明して。	80	47.6%
4	てんかん発作の救急処置としては、口に箸などを押し込んだり、あわてて救急車を呼んだりせず、安静にし安全な場所に置く。大発作の場合は衣類をゆるめ、頭の下に柔らかいものをあて、顔を横に向けて、意識が回復するまで見守ってあげて。	43	25.6%

「障害のある当事者からのメッセージ(知ってほしいこと)」の集計結果

8. 発達障害

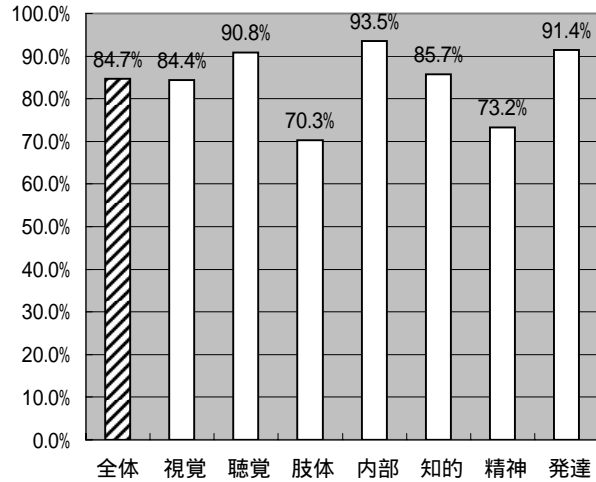
事 項	人数(人)	割合
	255	100.0%
(1) 障害の内容について		
共通事項		
1 外見で分かるものだけが障害ではなく、外見では分からないために理解されずに苦しんでいる障害もある。	233	91.4%
2 障害の種類も程度も様々であり、一律ではない。	205	80.4%
3 障害は本人や家族の責任で生じるものではない。	202	79.2%
4 「みんな一緒に」「できないことや苦手を克服」といった社会の当たり前の価値観に苦しんでいる人もいる。	184	72.2%
5 目が悪くなれば眼鏡をかけるように、不自由さを補う道具や援助があればできることは多い。	177	69.4%
6 普通の人と同じようにできないのは、努力が不足しているからではない。	173	67.8%
7 障害があっても普通の生活をしたいと願っている。	159	62.4%
8 「障害がある人」とは「特別な支援が必要な人」である。	146	57.3%
9 障害は誰にでも起こり得る身近なもの。	142	55.7%
10 障害が重度でも生き甲斐や役割を持つことでいきいき生活できる。	137	53.7%
11 障害があるために特別な目で見られたり、同情されたり、軽蔑されたりすることは耐え難い。	126	49.4%
12 障害があることは、「不幸」ではなく「不自由」なだけ。	110	43.1%
障害別事項		
1 全国に6.3%いると言われながら十分な理解と支援をなかなか受けられていないLD(学習障害)、ADHD(注意欠陥/多動性障害)、アスペルガー、高機能自閉症などの軽度発達障害者が存在している。	219	85.9%
2 外見では分かりにくい障害のため、「態度が悪い」「親の躰が悪い」などと批判されやすい。	214	83.9%
3 人の表情・態度や裏表が読み取れず、的確な状況判断ができない。	188	73.7%
4 普通の人のようにやらなくてはと思いつつも、そうできないことに苦しんでいる。	180	70.6%
5 知能が高くて生活に問題はなさそうに見えても、社会生活に問題がある。	178	69.8%
6 年齢相応の社会性が身に付いていない。	172	67.5%
7 普通の人とは異なる感覚(五感、平衡感覚、認知など)が生じている場合がある。	172	67.5%
8 軽度発達障害児を抱えて社会から孤立し、相談場所が存在することすら知らない家族がいる。	157	61.6%
9 順序立てて論理的に話すことが苦手。	152	59.6%
10 子どもの子育てでは保育困難な状況に陥りやすく、孤立した子育ての中では児童虐待にもつながりかねない。	147	57.6%
11 トウレット障害では、顔を歪めたり、突然大声を出したりするチック症状があって、何事かと驚かれるが、本人がわざとしているわけではなく、ぜんそくやアトピーと同じように、そういう器質をもって生まれてきたためであることを理解して。	99	38.8%

(2)必要な配慮について			
共通事項			
1	障害者に関わる専門家は必要な知識をしっかりと身につけて。	212	83.1%
2	本人や家族の努力だけでは解決できないことが多くある。	212	83.1%
3	障害があっても働きたいと願っているので、働くための支援や働く場を確保して。	191	74.9%
4	「障害があるからできない」と決めつけずに、できることを一緒に考えて。	168	65.9%
5	障害だけを見るのではなく、一人の人間として全体像を見て。	148	58.0%
6	障害者のためのサービスをもっと利用しやすくして。	147	57.6%
7	障害者にもいろいろなことに挑戦できる機会を多く設けて。	131	51.4%
8	自分の障害のことを端的に説明するのは難しいので、障害の内容よりもどのような支援が必要かを聞いて。	127	49.8%
9	自分の周りにはいる障害者のイメージで障害者一般を考えないで。	125	49.0%
10	福祉の制度や施設の中だけに障害者を囲い込まないで。	125	49.0%
11	特別扱いではなく普通の人としてさりげなく接して。	116	45.5%
12	思いこみや押し付けの援助ではなく、援助が必要かどうかを尋ねてから必要な援助をして。	116	45.5%
13	障害を無くしたり軽くすれば、問題が無くなると考えないで。	112	43.9%
14	相互理解のために自然に交流できる場を設けて。	104	40.8%
15	何かができないことを可哀想と思う風潮を改めて。	99	38.8%
16	「障害があるのに頑張っている」と変に美化しないで。	90	35.3%
17	「障害」というイメージが悪い言葉を他の適切な言葉に変えて。	84	32.9%
18	イベント等で障害に対する配慮がされている場合は、事前に十分周知して。	76	29.8%
19	ことさらに障害に関する言葉や事実を避けて話したり、遠まわしに言われることは、心の負担となる。	75	29.4%
20	介助者がいても、介助者ではなく本人に話しかけて。	72	28.2%
21	交通機関の障害者割引を利用する際に、嫌な顔をしないで。	66	25.9%
22	子ども扱いしたり友達言葉で話しかけないで。	62	24.3%
23	障害について理解するため、車いすやアイマスクなどで障害を疑似体験してみて。	52	20.4%
障害別事項			
1	教え方や学習の仕方をきめ細かくすることで、克服できる部分が多い。	208	81.6%
2	視覚的なサポートがあると理解しやすい。	168	65.9%
3	発達障害があることを周囲の人に知ってもらえるようなマークやサインがあると良い。	110	43.1%

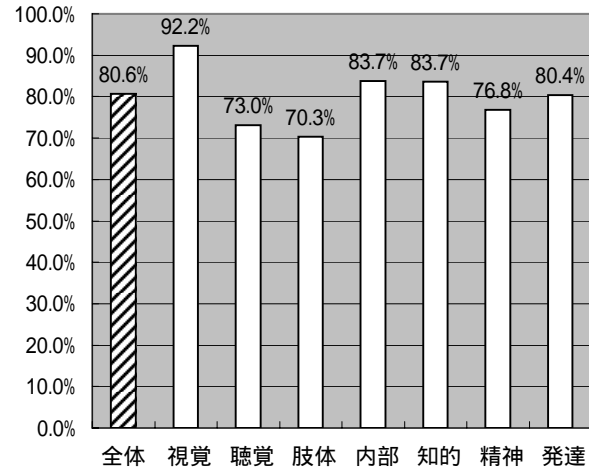
「障害のある当事者からのメッセージ(知ってほしいこと)」の集計結果〔共通事項〕

【障害の内容】

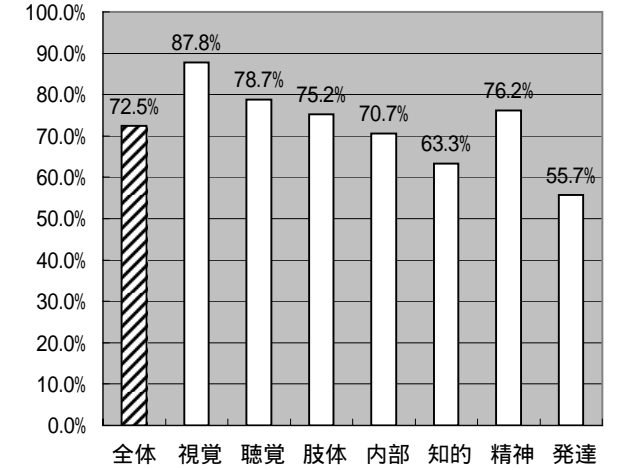
(1) 外見でわかるものだけが障害ではなく、外見では分からないために理解されずに苦しんでいる障害もある



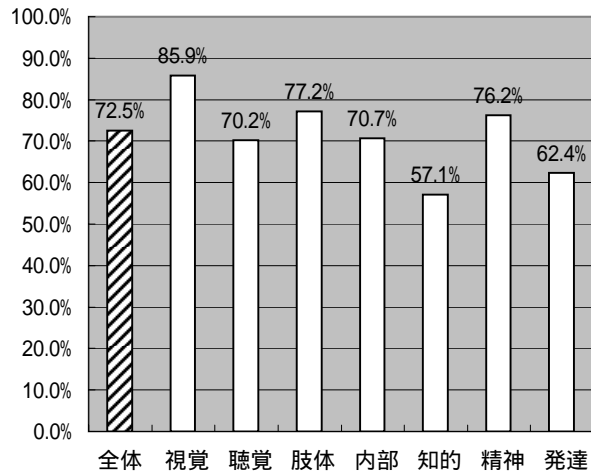
(2) 障害の種類も程度も様々であり、一律ではない。



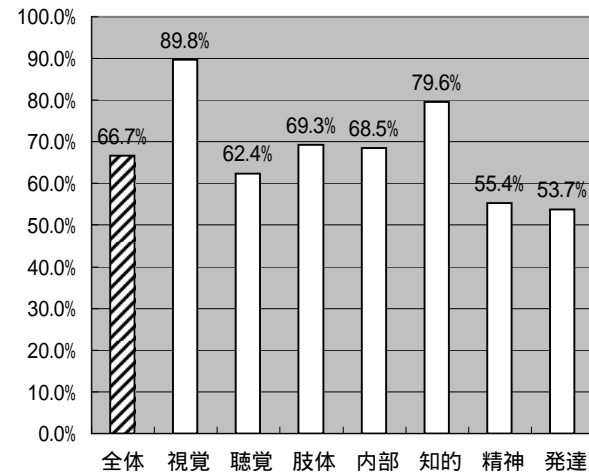
(3) 障害は誰にでも起こり得る身近なもの



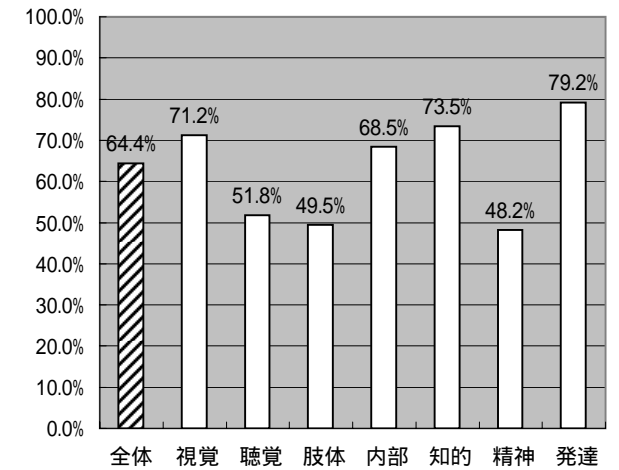
(4) 障害があっても普通の生活をしたいと願っている



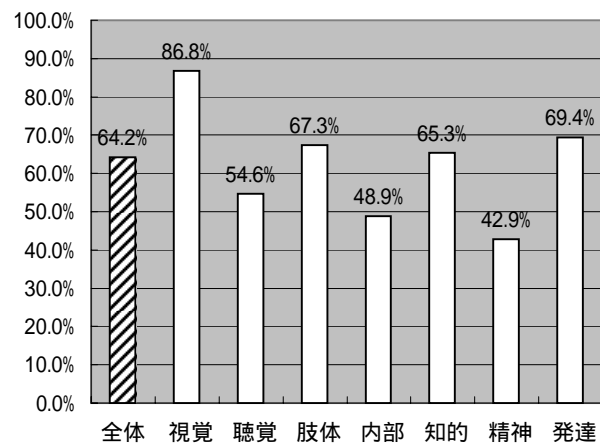
(5) 障害が重度でも生き甲斐や役割を持つことでいきいき生活できる



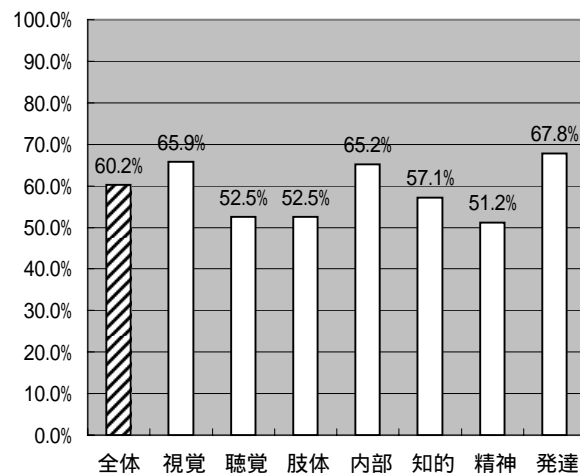
(6) 障害は本人や家族の責任で生じるものではない



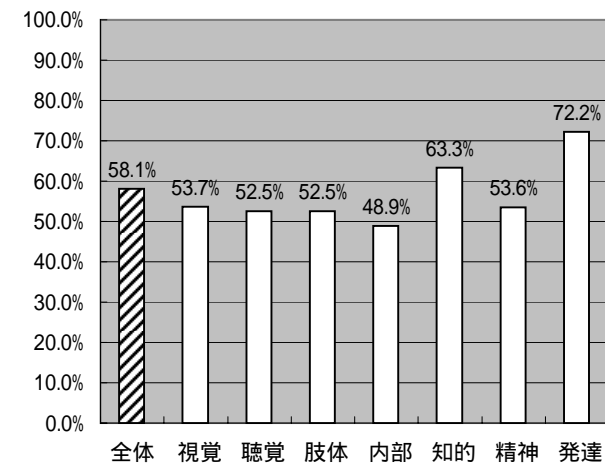
(7) 目が悪くなれば眼鏡をかけるように、不自由さを補う道具や援助があればできることは多い



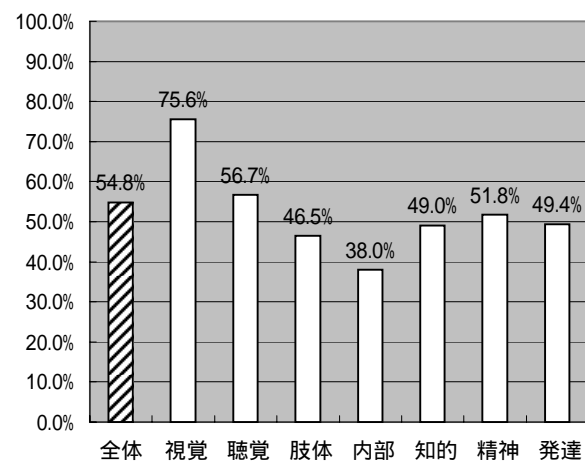
(8) 普通の人と同じようにできないのは、努力が不足しているからではない



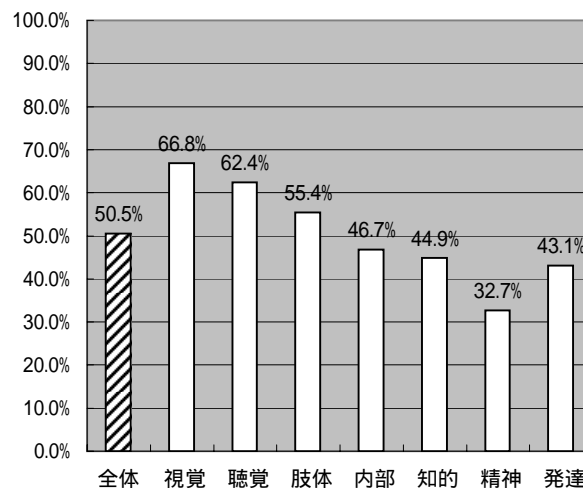
(9) 「みんな一緒に」「できないことや苦手を克服」といった社会の当たり前の価値観に苦しんでいる人もいます。



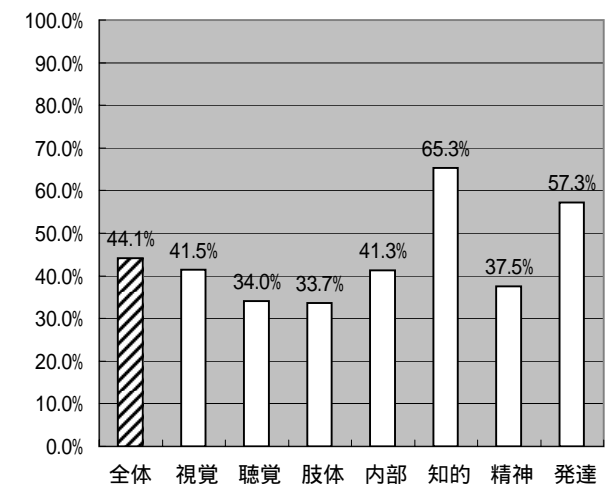
(10) 障害があるために特別な目で見られたり、同情されたり、軽蔑されたりすることは耐え難い



(11) 障害があることは、「不幸」ではなく「不自由」なだけ

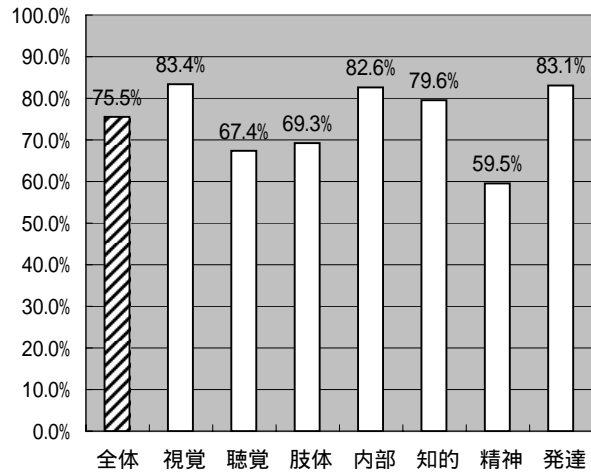


(12) 「障害がある人」とは「特別な支援が必要な人」である

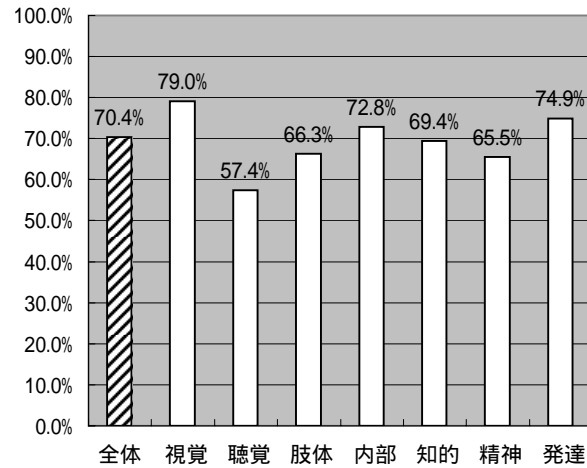


【必要な配慮】

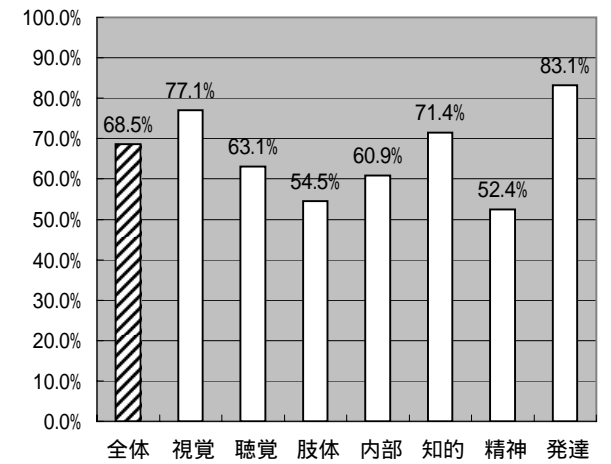
(1) 本人や家族の努力だけでは解決できないことが多くある



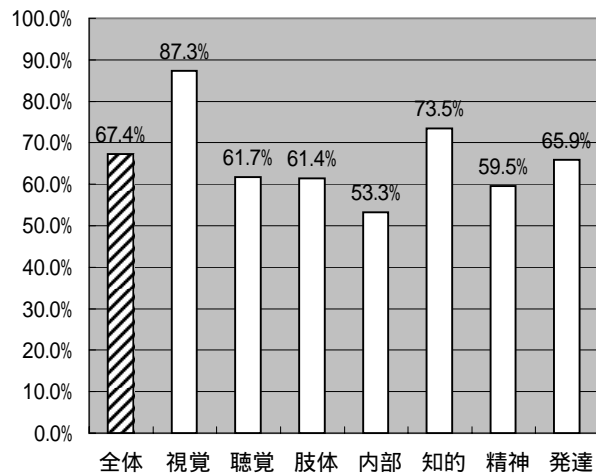
(2) 障害があっても働きたいと願っているので、働くための支援や働く場を確保して



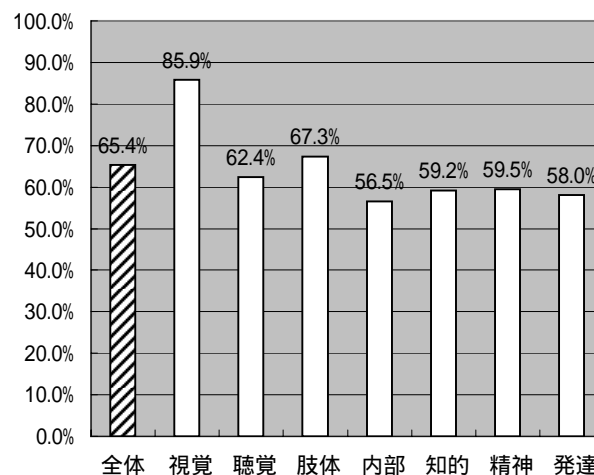
(3) 障害者に関わる専門家は必要な知識をしっかりと身につけて



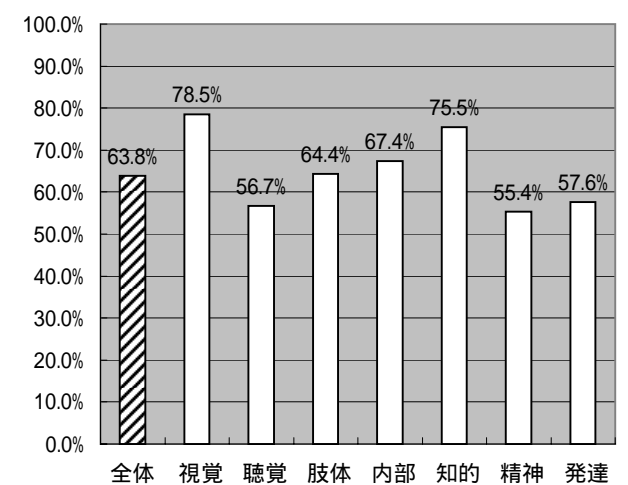
(4) 「障害があるからできない」と決めつけずに、できることを一緒に考えて



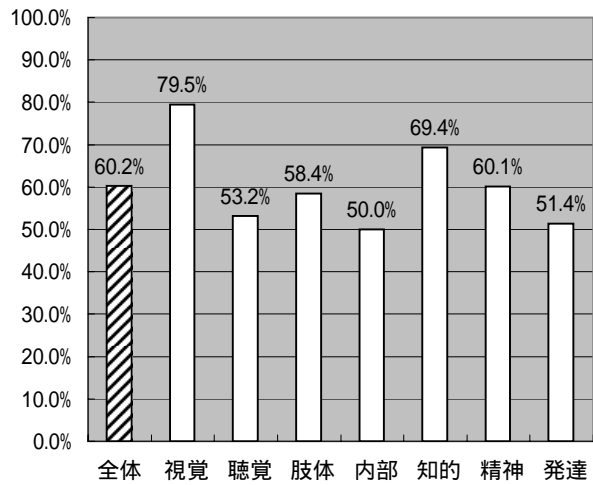
(5) 障害だけみるのではなく、一人の人間として全体像を見て



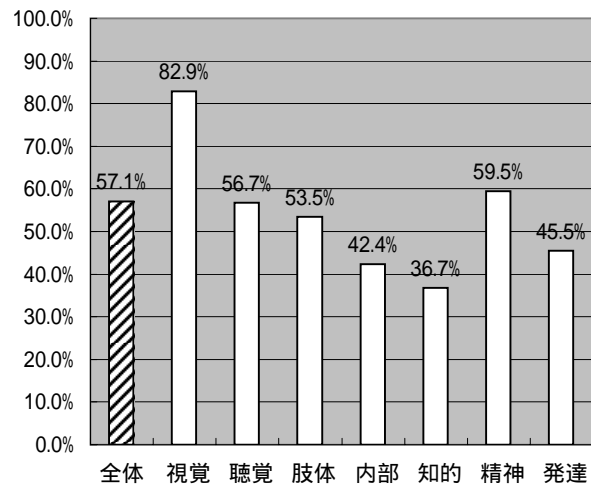
(6) 障害者のためのサービスをもっと利用しやすくして



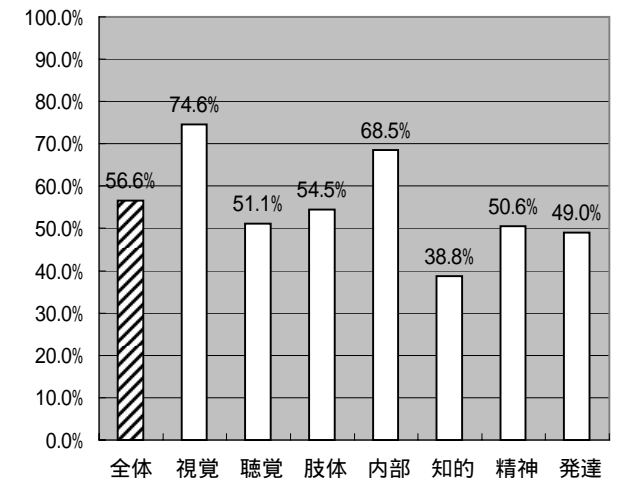
(7) 障害者にもいろいろなことに挑戦できる機会を多く設けて



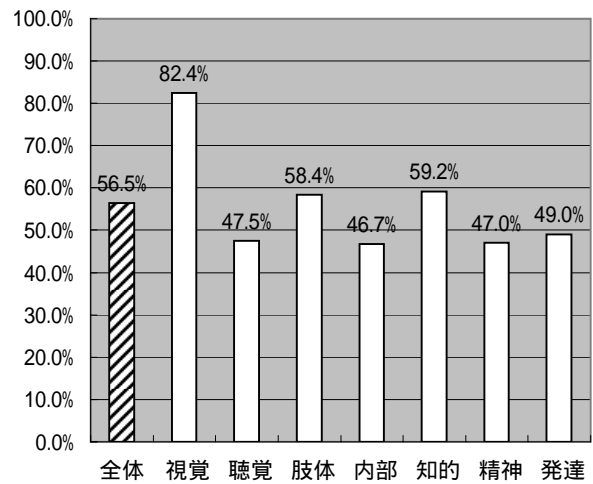
(8) 特別扱いではなく普通の人としてさりげなく接して



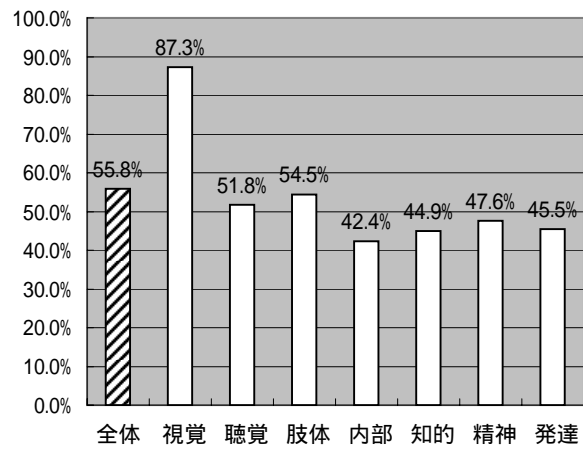
(9) 自分の周りにはいる障害者のイメージで障害者一般を考えないで



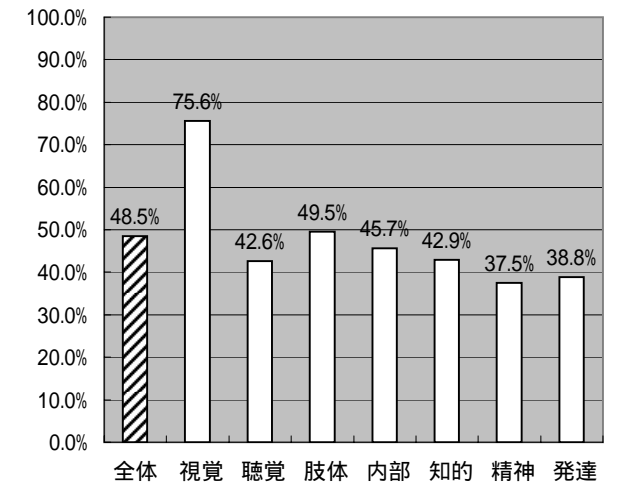
(10) 福祉の制度や施設の中だけに障害者を囲い込まないで



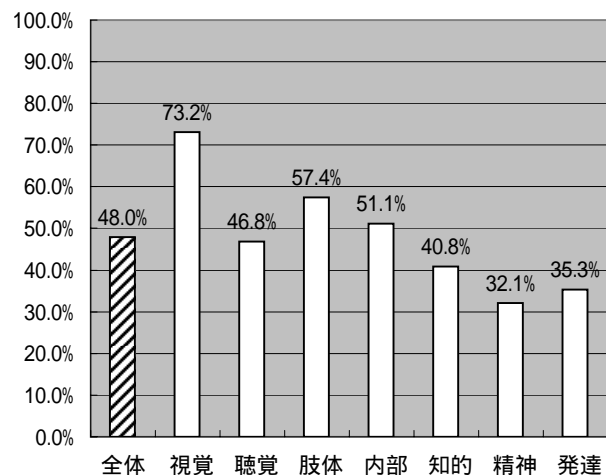
(11) 思いこみや押しつけの援助ではなく、援助が必要かどうかを尋ねてから必要な援助をして



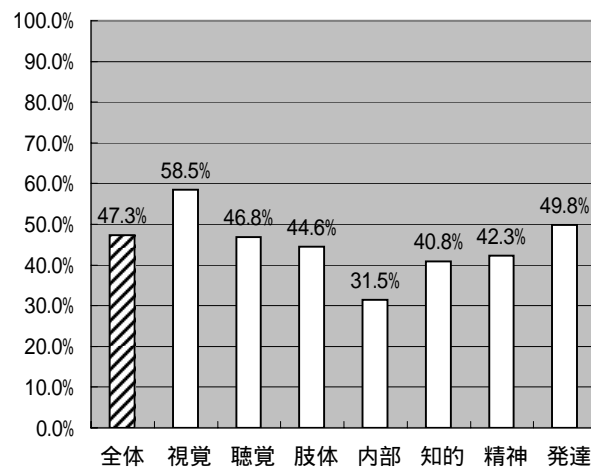
(12) 何かができないことを可哀想と思う風潮を改めて



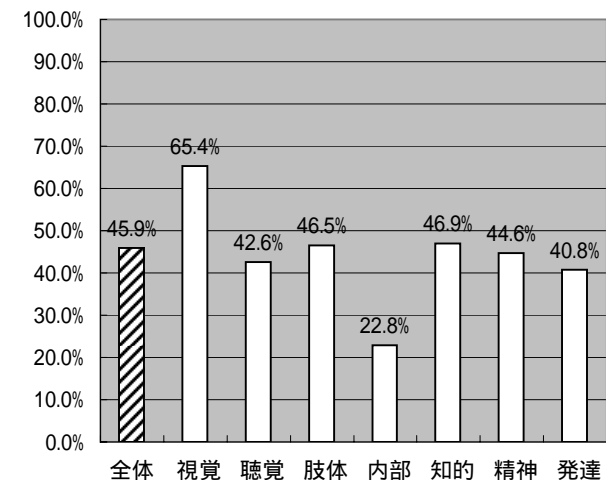
(13)「障害があるのに頑張っている」と変に美化しないで



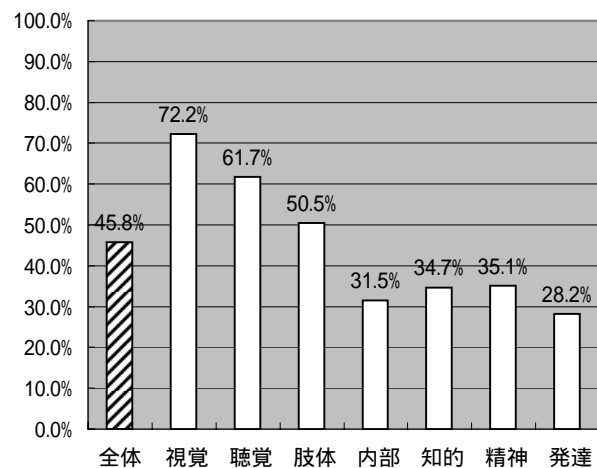
(14) 自分の障害のことを端的に説明するのは難しいので、障害の内容よりもどのような支援が必要かを聞いて



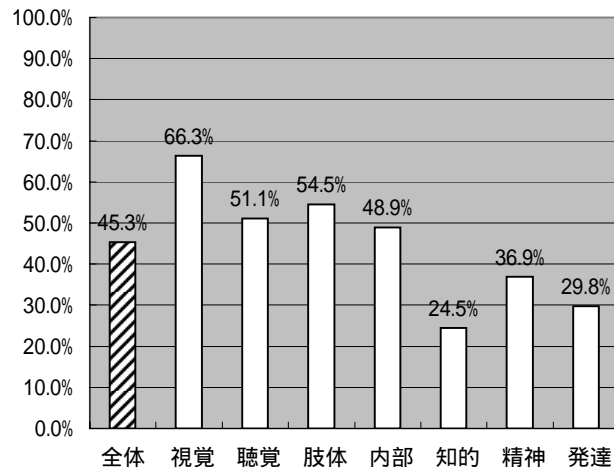
(15) 相互理解のために自然に交流できる場を設けて



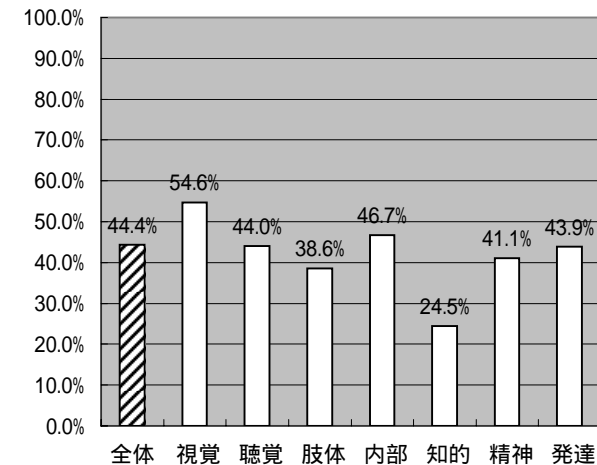
(16) 介助者がいても、介助者ではなく本人に話しかけて



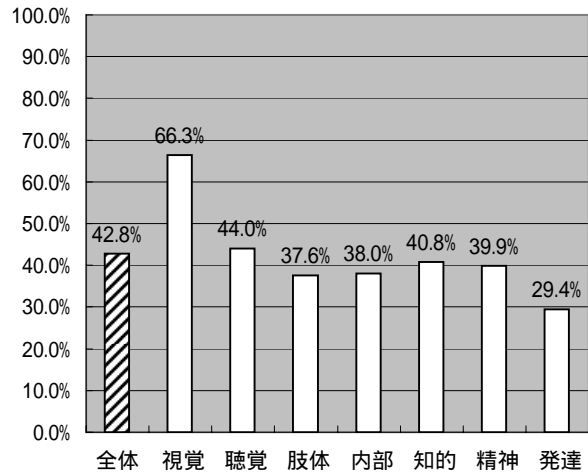
(17) イベント等で障害に対する配慮がされている場合は、事前に十分周知して



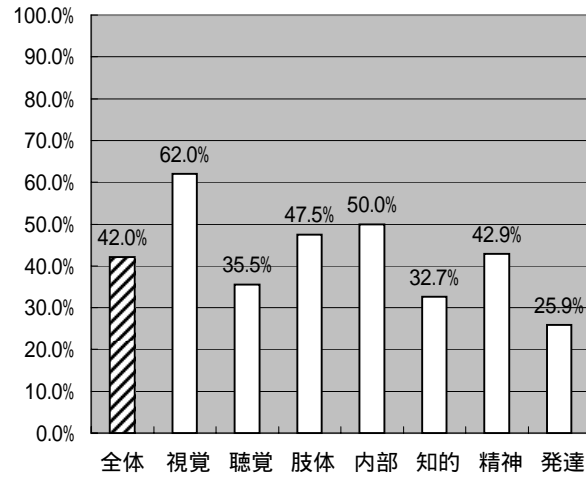
(18) 障害を無くしたり軽くすれば、問題が無くなると考えないで



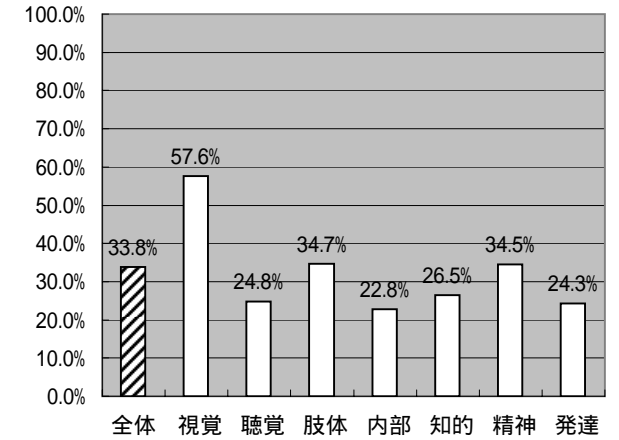
(19) ことさらに障害に関する言葉や事実を避けて話したり、遠まわしに言われることは、心の負担となる



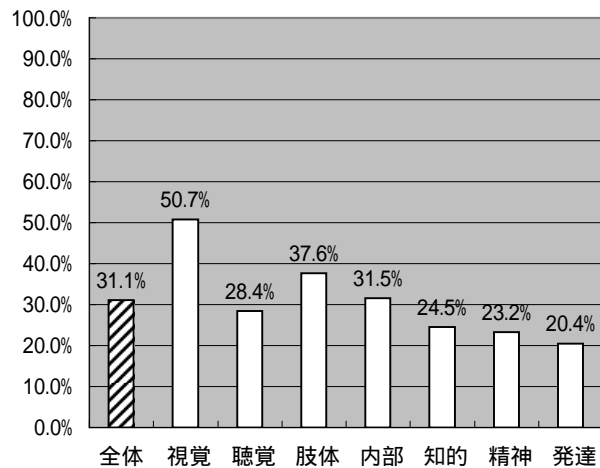
(20) 交通機関の障害者割引を利用する際に、嫌な顔をしないで



(21) 子ども扱いしたり友達言葉で話かけないで



(22) 障害について理解するため、車いすやアイマスクなどで障害を疑似体験してみる



(23) 「障害」というイメージが悪い言葉を他の適切な言葉にかえて

